

実践報告

本学健康スポーツ専攻教員養成課程における 保健体育科教育法体育分野の現状と課題

The present condition and issues of Teaching Theory & Methods of Physical Education in Musashigaoka college

山村 伸

Shin YAMAMURA

Abstract

本稿では武蔵丘短期大学健康生活学科健康スポーツ専攻の保健体育教員養成課程科目の1つである保健体育科教育法(体育分野)の講義内容の現状と課題、また課題と併せ平成29年度3月に公示され、2年間の移行期間を経て平成33年度より全面的に実施される新学習指導要領の資質・能力の三つの柱「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」をふまえた保健体育科教育法体育分野の内容の検討を行った。

キーワード：教員養成、保健体育科教育法

I はじめに

本学の健康生活学科は健康スポーツ専攻、健康栄養専攻、健康マネジメント専攻の3専攻から構成されており、その内の健康スポーツ専攻では教員養成課程(中学校保健体育二種免許状)を設けている。

短期大学における保健体育科教員養成課程は全国的な規模でみると少数ではあるが、二年間で教員免許を取得できるメリット、多様化する高校生の進路や価値観、家庭の経済状況、その後のステップアップに繋がる基礎免許などの役割を果たしていると考えられる。本稿では教職に関する専門教育課程の一つである保健体育科教育法(体育分野)の講義内容の現状と課題、また平成29年度3月に公示され、2年間の移行期間を経て平成33年度より全面的に実施される新学習指導要領の資質・能力の三つの柱「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」を踏まえた保健体育科教育法体育分野の内容の検討を行った。

II 現行の講義内容

本学の保健体育科教育法は一年次の後学期に開講されており、全15回を体育分野(10回)、保健分野(5回)に分けそれぞれの担当教員が実施している。

(1) 講義概要

中学校学習指導要領を基に中学校の教育におけ

る「保健体育科」の意義を理解し、保健体育教員としての心構えから指導案作成、保健体育授業の内容・方法を概説する。

(2) 講義内容(体育分野)

第1回 ガイダンス 埼玉県における中学校保健体育教諭の採用状況などの説明

第2回 保健体育の目標 体育分野の目標

第3回 各分野の内容第一、第二学年 目標 体づくり運動 器械運動

第4回 各分野の内容第一、第二学年 陸上競技 水泳 球技

第5回 各分野の内容第一、第二学年 武道 ダンス 体育理論

第6回 各分野の内容第三学年 陸上競技 水泳 球技

第7回 各分野の内容第三学年 目標 体づくり運動 器械運動

第8回 各分野の内容第三学年 武道 ダンス 体育理論

第9回 内容の取扱い 体づくり運動 器械運動 陸上競技 水泳 体育・スポーツに関する一般常識問題

第10回 内容の取扱い 球技 武道 ダンス 体育理論 体育・スポーツに関する一般常識問題

体育分野においては、学習指導要領を基に作成し

た括弧埋め形式のプリントを用い(表1、表2)それぞれの分野に関する解説をメインに講義を進行している。知識の定着を図る為、毎回の講義の初めに前回の内容についての小テストを行っている。また、本学の保健体育科教員養成課程では二学年での教員養成となる為、体育・スポーツに関する経験や知識を得る機会が四年制大学と比較し時間的に短いことは否定できない。その点を補う一つの方策として、講義の中に必要に応じ各種競技のルールや記録、トピックスなどを盛り込んだ「体育・スポーツに関する一般常識問題」を実施している(表3)。

(3) 講義内容(保健分野)

保健分野においては保健分野の担当教員が学習指導要領に沿って講義を進行し、その後保健分野の指導案の作成指導、代表学生の模擬授業、それに対するディスカッションを行っている。

第11回 保健分野の目標

第12回 保健分野の内容

第13回 保健分野の内容の取扱い

第14回 指導案作成1

第15回 指導案作成2 模擬授業ディスカッション

Ⅲ 体育分野における各講義内容の詳細

(1) 第1回 ガイダンス

第1回目の講義では講義内の注意事項、授業概要、成績評価の方法に加え、本学が所在する埼玉県を例に挙げて中学校保健体育教諭の採用人数や倍率、教員採用試験の詳細(一次試験、二次試験の日程や内容)について説明を行っている。中学校保健体育科教諭を目指すうえでの現在地を明確にすることを狙いとしている。

(2) 第2回 保健体育の目標

保健体育の目標

心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てるとともに健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。

体育分野 第一学年及び第二学年の目標

運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わうことができるとともに、知識や技能を身につけ、運動を豊かに実践することができるように

する。

- ・運動を適切に行うことによって、体力を高め、心身の調和的発達を図る。

- ・運動における競争や協同の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の役割を果たすなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を育てる。

体育分野 第三学年の目標

運動の合理的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを味わうとともに、知識や技能を高め、生涯にわたって運動を豊かに実践することができるようにする。

- ・運動を適切に行うことによって、自己の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、心身の調和的発達を図る。

- ・運動における競争や協同の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画するなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって運動に親しむ態度を育てる。

上記の文章は学習指導要領における目標の箇所の抜粋である¹⁾。第2回目の講義ではこれらの内容を扱っている。履修学生に保健体育科教育法体育分野全体の流れを把握させる為に保健体育全体、体育分野第一学年及び第二学年、第三学年の目標を内容よりも先に取り扱っている。指導上のポイントとして心と体は相互に関係している心身相関の考え方、体育授業における安全管理の重要性。生涯スポーツ、運動の身心への恩恵、フェアなプレイ、行動体力・防衛体力をふまえた体力の考え方、などと関連を図りながら講義を進めている。また、教員採用試験において頻出箇所であることから第一学年及び第二学年と第三学年の目標を見分ける方法(自己の役割と責任、健康・安全の留意と確保の差異)についても重要視している。

(3) 第3回～第5回 各分野の内容 第一学年及び第二学年 A:体づくり運動 B:器械運動 C:陸上競技 D:水泳 E:球技 F:武道 G:ダンス H:体育理論

内容(第一学年及び第二学年)

A:体づくり運動

次の運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、体力を高め、目的に適した運動を身に

付け、組み合わせることができるようにする。

- ア 体ほぐしの運動では、心と体の関係に気付き、体の調子を整え、仲間と交流するための手軽な運動や律動的な運動を行うこと。
- イ 体力を高める運動では、ねらいに応じて、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動を行うとともに、それらを組み合わせて運動の計画に取り組むこと。体づくり運動に積極的に取り組むとともに、分担した役割を果たそうとすることなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。

体づくり運動の意義と行い方、運動の計画の立て方などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

B：器械運動

次の運動について、技ができる楽しさや喜びを味わい、その技がよりよくできるようにする。

- ア マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技、発展技を行うこと、それらを組み合わせること。
- イ 鉄棒運動では、支持系や懸垂系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技、発展技を行うこと、それらを組み合わせること。
- ウ 平均台運動では、体操系やバランス系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技、発展技を行うこと、それらを組み合わせること。
- エ 跳び箱運動では、切り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技、発展技を行うこと。

器械運動に積極的に取り組むとともに、よい演技を認めようとする、分担した役割を果たそうとすることなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。

器械運動の特性や成り立ち、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

C：陸上競技

次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、基本的な動きや効率のよい動きを身につけることができるようにする。

- ア 短距離走・リレーでは、滑らかな動きで速く走ること、長距離走では、ペースを守り一定の距離を走ること、ハードル走では、リズムカルな走りから滑らかにハードルを越すこと。
- イ 走り幅跳びでは、スピードに乗った助走から素早く踏み切って跳ぶこと、走り高跳びでは、リズムカルな助走から力強く踏み切って大きな動作で跳ぶこと。

陸上競技に積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。

陸上競技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

D：水泳

次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、泳法を身につけることができるようにする。

- ア クロールでは、足と手、呼吸のバランスをとり速く泳ぐこと。
- イ 平泳ぎでは、手と足、呼吸のバランスをとり長く泳ぐこと。
- ウ 背泳ぎでは、手と足、呼吸のバランスをとり泳ぐこと。
- エ バタフライでは、手と足、呼吸のバランスをとりおよぐこと。

水泳に積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、水泳の事故防止に関する心得など健康・安全に気を配ることができるようにする。

水泳の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

E：球技

次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームが展開できるようにする。

- ア ゴール型では、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防を展開すること。
- イ ネット型では、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所を巡る攻防を展開すること。
- ウ ベースボール型では、基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻防を展開すること。

球技に積極的に取り組むとともに、フェアプレイを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとするなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。

球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

F：武道

次の運動について、技ができる楽しさや喜びを味わい、基本動作や基本となる技ができるようにする。

- ア 柔道では、相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、投げたり抑えたりするなどの攻防を展開すること。
- イ 剣道では、相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、打ったり受けたりするなどの攻防を展開すること。
- ウ 相撲では、相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技を用いて、押ししたり寄りたりするなどの攻防を展開すること。

武道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、禁じ技を用いないなど健康・安全に気を配ることができるようにする。

武道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

G：ダンス

次の運動について、感じを込めて踊ったりみんなで踊ったりする楽しさや喜びを味わい、イメージをとらえた表現や踊りを通じた交流ができるようにす

る。

- ア 創作ダンスでは、多様なテーマから表したいイメージをとらえ、動きに変化を付けて即興的に表現したり、変化のあるまとまりの表現にしたりして踊ること。
- イ フォークダンスでは、踊り方の特徴をとらえ、音楽に合わせて特徴的なステップや動きで踊ること。
- ウ 現代的なリズムのダンスでは、リズムの特徴をとらえ、変化のある動きを組み合わせ、リズムに乗って全身で踊ること。

ダンスに積極的に取り組むとともに、よさを認め合おうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。

ダンスの特性、踊りの由来と狂言の仕方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

H：体育理論

運動やスポーツが多様であることについて理解できるようにする。

- ア 運動やスポーツは、体を動かしたり、健康を維持したりするなどの必要性や、競技に応じた力を試すなどの楽しさから生み出され発展してきたこと。
- イ 運動やスポーツには、行うこと、見ること、支えることなどの多様なかわり方があること。
- ウ 運動やスポーツには、特有の技術や戦術があり、その学び方には一定の方法があること。

運動やスポーツの意義や効果などについて理解できるようにする。

- ア 運動やスポーツは、身体の発達やその機能の維持、体力の向上などの効果や自信の獲得、ストレスの解消などの心理的効果が期待できること。
- イ 運動やスポーツは、ルールやマナーについて合意したり、適切な人間関係を築いたりするなどの社会性を高める効果が期待できること。
- ウ 運動やスポーツを行う際は、その特性や目的発達の段階や体調などを踏まえて運動を選ぶなど健康・安全に留意する必要があること。

上記の文章は学習指導要領における第一学年及び第二学年の内容の抜粋である。第3回目から第5回目の講義ではこれらの内容を扱う。まず、履修学生にはA～Hのアルファベットと種目との関連性とその後続くア～エに入るキーワードを理解させるよう努めた。

- 「A：体づくり運動 ア. 体ほぐしの運動 イ. 体力を高める運動」
 「B：器械運動 ア. マット運動 イ. 鉄棒運動 ウ. 平均台運動 エ. 跳び箱運動」
 「C：陸上競技 ア. 短距離・リレー 長距離 ハードル走 イ. 走り幅跳び走り高跳び」
 「D：水泳 ア. クロール イ. 平泳ぎ ウ. 背泳ぎ エ. バタフライ」
 「E：球技 ア. ゴール型 イ. ネット型 ウ. ベースボール型」
 「F：武道 ア. 柔道 イ. 剣道 ウ. 相撲」
 「G：ダンス ア. 創作ダンス イ. フォークダンス ウ. 現代的なリズムのダンス」
 「H：体育理論 ア. 運動の効果 イ. 社会性を高める効果 ウ. 健康・安全に留意」

次に中学校学習指導要領解説保健体育編²⁾を用いながら以下の点に留意しながら講義を展開した。

- 「A：体づくり運動」体づくり運動が学習指導要領に取り入れられた経緯、児童・生徒の体力低下、体力の二極化、体力とは？
 「B：器械運動」マット運動、鉄棒運動、平均台運動、跳び箱運動の基本的な技の説明。滑らかに行うとは？条件を変えた技、発展技、組合せの具体例、器械運動で起こった怪我の事例
 「C：陸上競技」世界記録などを引き合いに出しながら短距離走・リレー、長距離走、走り幅跳び、走り高跳びの基本的な動きや効率の良い動きの説明、フェアプレイの大切さ（勝って奢らず負けて潔く）、陸上競技で発生する事故の事例
 「D：水泳」クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライ（4泳法）の特徴、なぜクロールが速く泳ぐで平泳ぎが長く泳ぐのか？水泳は特に死亡事故が起りやすいことの注意喚起
 「E：球技」チームワーク、フェアプレイの重要性、ゴール型種目におけるスペーシング、ネット型種目における用具操作の方法と定位置に戻る重要性、ベースボールではなくベースボール型である

理由、簡単なソフトボールのルール説明（野球が地上波で放送されなくなったことにより、ルールを知らない学生が大幅に増加していることから）

- 「F：武道」柔道、剣道、相撲の基本的な技の説明、礼に始まり礼に終わるなど相手を尊重する態度や伝統的な行動の仕方大切さ、禁じ技の紹介と武道の授業で発生する怪我の事例
 「G：ダンス」創作ダンス、フォークダンス、現代的なリズムのダンス、各ダンスの特徴や踊りの由来の説明、何故ダンスが必修になったのか？教育現場での現状、「現代的なリズムのダンス＝ヒップホップダンス」ではない
 「H：体育理論」運動やスポーツの身体面・心理面への効果、運動やスポーツを行なうこと、見ること、支えることの具体例、部活動と社会性

- (4) 第6回～第8回 各分野の内容 第3学年
 A 体づくり運動 B 器械運動 C 陸上競技 D 水泳
 E 球技 F 武道 G ダンス H 体育理論

内容 (第三学年)

A：体づくり運動

次の運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、健康の保持増進や体力の向上を図り、目的に適した運動の計画を立て取り組むことができるようにする。

- ア 体ほぐしの運動では、心と体は互いに影響し変化することに気付き、体の状態に応じて体の調子を整え、仲間と積極的に交流するための手軽な運動や律動的な運動を行うこと。
 イ 体力を高める運動では、ねらいに応じて、健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図るための運動の計画を立て取り組むこと。

体づくり運動に自主的に取り組むとともに、体力の違いに配慮しようとする、自己の責任を果たそうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。

運動を継続する意義、体の構造、運動の法則などを理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

B：器械運動

次の運動について、技ができる楽しさや喜びを味

わい、自己に適した技で演技することができるようにする。

ア マット運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技、発展技を行うこと、それらを構成し演技すること。

イ 鉄棒運動では、支持系や懸垂系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技、発展技を行うこと、それらを構成し演技すること。

ウ 平均台運動では、体操系やバランス系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技、発展技を行うこと、それらを構成し演技すること。

エ 跳び箱運動では、切り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技、発展技を行うこと。

器械運動に自主的に取り組むとともに、よい演技を讃えようとする、自己の責任を果たそうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。

技の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

C：陸上運動

次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、基本的な動きや効率のよい動きを身につけることができるようにする。

ア 短距離走・リレーでは、滑らかな動きで速く走ること、長距離走では、ペースを守り一定の距離を走ること、ハードル走では、リズムカルな走りから滑らかにハードルを越すこと。

イ 走り幅跳びでは、スピードに乗った助走から素早く踏み切って跳ぶこと、走り高跳びでは、リズムカルな助走から力強く踏み切って大きな動作で跳ぶこと。

陸上競技に積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。

陸上競技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、

関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

D：水泳

次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、泳法を身につけることができるようにする。

ア クロールでは、足と手、呼吸のバランスをとり速く泳ぐこと。

イ 平泳ぎでは、手と足、呼吸のバランスをとり長く泳ぐこと。

ウ 背泳ぎでは、手と足、呼吸のバランスをとり泳ぐこと。

エ バタフライでは、手と足、呼吸のバランスをとりおよぐこと。

水泳に積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、水泳の事故防止に関する心得など健康・安全に気を配ることができるようにする。

水泳の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

E：球技

次の運動について、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームが展開できるようにする。

ア ゴール型では、ボール操作と空間に走りこむなどの動きによってゴール前での攻防を展開すること。

イ ネット型では、ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所を巡る攻防を展開すること。

ウ ベースボール型では、基本的なバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と定位置での守備などによって攻防を展開すること。

球技に積極的に取り組むとともに、フェアプレイを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとするなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。

球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

F：武道

次の運動について、技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、得意技を身に付けることができるようにする。

- ア 柔道では、相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技、得意技や連絡技を用いて、相手を崩して投げたり抑えたりするなどの攻防を展開すること。
- イ 剣道では、相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技や得意技を用いて、しかけたり、応じたりするなどの攻防を展開すること。
- ウ 相撲では、相手の動きに応じた基本動作から、基本となる技や得意技を用いて、相手を崩し、投げたりひねったりするなどの攻防を展開すること。

武道に自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとする事、自己の責任を果たそうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。

伝統的な考え方、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

G：ダンス

次の運動について、感じを込めて踊ったりみんなですべて自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、イメージを深めた表現や踊りを通じた交流や発表ができるようにする。

- ア 創作ダンスでは、表したいテーマにふさわしいイメージをとらえ、個や群で、緩急強弱のある動きや空間の使い方の変化を付けて即興的に表現したり、簡単な作品にまとめたりして踊ること。
- イ フォークダンスでは、踊り方の特徴をとらえ、音楽に合わせて特徴的なステップや動きと組み方で踊ること。
- ウ 現代的なリズムのダンスでは、リズムの特徴を

とらえ、変化とまとまりを付けて、リズムに乗って全身で踊ること。

ダンスに積極的に取り組むとともに、互いの違いやよさを認め合おうとすること、自己の責任を果たそうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。

ダンスの名称や用語、踊りの特徴と表現の仕方、体力の高め方、交流や発表の仕方などを理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

H：体育理論

文化としてのスポーツの意義について理解できるようにする。

- ア スポーツは文化的な生活を営み、よりよく生きていくために重要であること。
- イ オリンピックや国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしていること。
- ウ スポーツは、民族や国、人種や性、障害の違いなどを超えて人々を結び付けていること。

上記の文章は学習指導要領における第三学年の内容の抜粋である¹⁾。第6回目から第8回目の講義ではこれらの内容を扱う。まず、履修学生には知識の定着を図るため第一学年及び第二学年の内容と同様にA～Hのアルファベットと種目との関連性とその後続くア～エに入るキーワードを理解させるよう努めた（第一学年及び第二学年と比較しH：体育理論のア～ウのみ異なる）。

- 「A：体づくり運動 ア. 体ほぐしの運動 イ. 体力を高める運動」
- 「B：器械運動 ア. マット運動 イ. 鉄棒運動 ウ. 平均台運動 エ. 跳び箱運動」
- 「C：陸上競技 ア. 短距離・リレー 長距離 ハードル走 イ. 走り幅跳び走り高跳び」
- 「D：水泳 ア. クロール イ. 平泳ぎ ウ. 背泳ぎ エ. バタフライ」
- 「E：球技 ア. ゴール型 イ. ネット型 ウ. ベースボール型」
- 「F：武道 ア. 柔道 イ. 剣道 ウ. 相撲」
- 「G：ダンス ア. 創作ダンス イ. フォークダンス ウ. 現代的なリズムのダンス」

「H：体育理論 ア. スポーツは文化的 イ. オリンピック ウ. スポーツは国境を越える」

次に中学校学習指導要領解説保健体育編²⁾を用いながら以下の点に留意しながら講義を展開した。

「A：体づくり運動」運動は体の調子を整えるだけではなく、心も整えることが出来る。運動は最高のコミュニケーションツールである。目的に適した運動計画の具体例

「B：器械運動」滑らかに安定して行うとは？自己に適した技の見つけ方、構成し演技するとは？各運動（マット運動、鉄棒運動、平均台運動、跳び箱運動）の主な技の例

「C：陸上競技」各種目（短距離走・リレー、長距離走、ハードル走、走り幅跳び、走り高跳び）の特有の技能について。長距離走における目標タイムの設定方法。背面跳びの危険性について

「D：水泳」スタート及びターンと4泳法の効率的な泳ぎ方について。個人メドレーやチームでのリレーの取扱いについて。

「E：球技」自チームや相手チームの特徴をふまえた作戦の立て方について。ゴール型種目におけるスペーシングを考慮したオンボール・オフボールの攻防について。ネット型種目における連携した動き及び役割に応じたボール操作や安定した用具の操作について。ベースボール型種目における攻撃（安定したバット操作と走塁）及び守備（ボール操作と連携した守備）について。第一学年及び第二学年で触れた簡単なソフトボールのルールの復習（野球が地上波で放送されなくなったことにより、ルールを知らない学生が大幅に増加していることから）

「F：武道」相手の変化に応じた基本動作について。得意技や連絡技について。重心と相手を崩すことの重要性について。見取り稽古とは

「G：ダンス」感じを込めて踊ったり、みんなで自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、イメージを深めた表現や踊りを通じた交流や発表ができるようにするには？（環境設定、雰囲気作りの観点から）表現・創作ダンスの題材・テーマと動きの例について。リズムダンス・現代的なリズムのダンスのリズムと動きの例について。ダンスの授業における指導現場での問題点について。

「H：体育理論」現代生活におけるスポーツの文化的意義について。国際的なスポーツ大会などが果

たす文化的な意義や役割について。スポーツが持つあらゆる壁を乗り越え人々を結びつける力

(5) 第9回～第10回 内容の取扱い 体づくり運動 器械運動 陸上競技 水泳 体育・スポーツに関する一般常識問題

内容の取扱い

内容の各領域については、次のとおり取り扱うものとする。

ア 第一学年及び第二学年においては、「A：体づくり運動」から「H：体育理論」までについては、すべての生徒に履修させること。その際、「A：体づくり運動」及び「H：体育理論」については、二学年にわたって履修させること。

イ 第三学年においては、「A：体づくり運動」及び「H：体育理論」については、すべての生徒に履修させること。「B：器械運動」、「C：陸上競技」、「D：水泳」及び「G：ダンス」についてはこれらの中から一以上を、「E：球技」及び「F：武道」についてはこれらの中から一以上をそれぞれ選択して履修できるようにすること。

内容の「A：体づくり運動」から「H：体育理論」までに示す事項については、次のとおり取り扱うものとする。

ア 「A：体づくり運動」の(1)のアの運動については、「B：器械運動」から「G：ダンス」までにおいても関連を図って指導することができる。とともに、心の健康など保健分野との関連を図ること。また、「A：体づくり運動」の(1)のイの運動については、第一学年及び第二学年においては、動きを持続する能力を高めることに留意すること。第三学年においては、日常的に取り組める運動例を取り上げるなど指導方法の工夫を図ること。

イ 「B：器械運動」の(1)の運動については、第一学年及び第二学年においては、アからエまでの中からアを含む二を選択して履修できるようにすること。第3学年においては、アからエまでの中から選択して履修できるようにすること。

ウ 「C：陸上競技」の(1)の運動については、ア及びイに示すそれぞれの運動の中から選択して履修できるようにすること。

エ 「D：水泳」の(1)の運動については、第一学

年及び第二学年においては、アからエまでの中からア又はイのいずれかを含む二を選択して履修できるようにすること。第三学年においては、アからオまでの中から選択して履修できるようにすること。また、泳法との関連において水中からのスタート及びターンを取り上げる。なお、水泳の指導については、適切な水泳場の確保が困難な場合にはこれを扱わないことができるが、水泳の事故防止に関する心得については、必ず取り上げること。また、保健分野の応急手当との関連を図ること。

- オ 「E：球技」の(1)の運動については、第一学年及び第二学年においては、アからウまでを全ての生徒に履修させること。第三学年においては、アからウまでの中から二を選択して履修できるようにすること。また、アについては、バスケットボール、ハンドボール、サッカーの中から、イについては、バレーボール、卓球、テニス、バドミントンの中から、ウについては、ソフトボールを適宜取り上げることとし、地域や学校の実態に応じて、その他の運動についても履修させることができること。なお、ウの実施に当たり、十分な広さの運動場の確保が難しい場合は指導方法を工夫して行うこと。
- カ 「F：武道」の(1)の運動については、アからウまでの中から一を選択して履修できるようにすること。なお、地域や学校の実態に応じて、なぎなたなどのその他の武道についても履修させることができること。また、武道場なども確保が難しい場合は指導方法を工夫して行うとともに、学習段階や個人差を踏まえ、段階的な指導を行うなど安全の確保に十分留意すること。
- キ 「G：ダンス」の(1)の運動については、アからウまでの中から選択して履修できるようにすること。なお、地域や学校の実態に応じて、その他のダンスについても履修させることができること。
- ク 第一学年及び第二学年の内容の「H：体育理論」については、(1)は第一学年、(2)は第二学年で取り上げること。

内容の「A：体づくり運動」から「G：ダンス」までの領域及び運動の選択並びにその指導に当たっては、地域や学校の実態及び生徒の特性等を考慮するものとする。その際、指導に当たっては、内容の

「B：器械運動」から「G：ダンス」までの領域については、それぞれの運動の特性に触れるために必要な体力を生徒自ら高めるように留意するものとする。

自然とのかかわりの深いスキー、スケートや水辺活動などの指導については、地域や学校の実態に応じて積極的に行うことに留意するものとする。

集合、整頓、列の増減、方向変換などの行動の仕方を身に付け、能率的で安全な集団としての行動ができるようにするための指導については、内容の「A：体づくり運動」から「G：ダンス」までの領域において適切に行うものとする。

上記の文章は学習指導要領における内容の取扱いの抜粋である¹⁾。第9回目から第10回目の講義ではこれらの内容を扱う。中学校学習指導要領解説保健体育編²⁾の内容の取扱いの箇所と解説内の144頁の体育分野の領域及び内容の取扱い一覧表(表4)を参考に以下の点に留意しながら講義を展開した。

保健体育の年間標準授業時数は105単位時間であり、三学年間では315単位時間である。三学年間での各分野に当てる授業時数は体育分野が267単位時間程度、保健分野は48単位時間程度である。指導内容のより一層の定着を図るため「A：体づくり運動」については、各学年で7単位時間以上、「H：体育理論」については、各学年で3単位時間以上が割り当てられ三学年に渡り必修である。

「B：器械運動」から「G：ダンス」までの領域において全ての内容が必修なわけではなく、第三学年では自己に適した運動種目を選択する観点から選択の幅がより広がっている。「E：水泳」、「F：武道」、「G：ダンス」においては、地域性や学校の実態に応じ、その他の運動(アイスホッケー、キックベース、合気道、よさこい節など)についても履修が可能である。授業時数はその内容の習熟を図ることが出来るように考慮して配当するべきであるが、その為には前述した地域や学校の実態を踏まえながら、生徒の能力・適性、興味・関心等に応じ三年間を見通した年間計画の作成が重要である。

(6) 第9回～第10回 体育・スポーツに関する一般常識問題

本学の保健体育科教員養成課程では短期大学という性質上二年間での教員養成となっている。授業

評価アンケートや合格者数などから判断すると質的には他大学と比較しても遜色ないと考えられる。しかしながら、四年生大学と比較した場合、体育・スポーツに関する経験や知識において多少のハンデキャップがあることは否定できない。その点を補う一つの方策として、体育・スポーツに関する一般常識問題を実施している(表3)。内容としては、各種目のルールや用具に関する問題、スポーツ選手名やオリンピックなどの世界大会に関する問題、その他トレーニングに関する雑学などを取り扱っている。履修学生に指導の幅を持たせることをねらいとし実施している。

IV 課題点

(1) 講義内容について

前述したとおり、体育分野の講義では学習指導要領の解説、プリントを用いた確認テストなどをメインに行っていることから、学習指導要領の理解及び知識の定着という観点からはある程度効果が得られている様に感じる。前述したように時間的な制限があることから現状の内容は教員採用試験の対策講座的側面が強い。

(2) 受講学生の声

二年次後学期に実施している教育実習後、教員採用試験受験後の事後指導において「教育実習以前に本学教職課程においてもっと充実すべき内容」についてインタビュー形式での質問をおこなった(n=27)。その結果、今後の課題となる意見として「指導案をもっと書いた方が良い」(9件)、「模擬授業の機会をもっとあった方が良い」(9件)などが多く見受けられた。受講生から量的な部分での要望が窺えた。

(3) 指導案について

保健分野については講義内での指導案作成を行っているが、体育分野では現状の所行っていない。また、他の教職科目においても指導案作成は行っているが、教職科目ゼミナール選択者だけである場合やカリキュラムの編成上二年次に開講されている。つまり教育実習中、あるいは実習後に開講される現状がある。

(4) 模擬授業について

保健体育の実技、講義共に現状の教員養成課程において模擬授業を実施しているが、特に学生に経験

を積ませるという観点から量の少なさが課題である。指導案作成と同じく、講義科目、実技科目共に模擬授業を主に実施する科目(教職実践演習、球技2など)が二年次後学期に開講されているのが現状である。

V 改善案

(1) 現行での改善案

保健体育科教育法の講義においては今後の教職課程カリキュラムの再編成に伴い、体育分野においても学習指導案作成の時間を取り入れることが必要である。学生の負担は増えるが指導要領の内容については講義時間外でのプリント課題などを課して、余剰時間を指導案の作成、評価方法、教材研究などに充てる必要があると考える。

また、カリキュラムの編成や時間割の兼ね合いがあるので直ぐに実現させることは難しいが、学生が教育実習を行う前(1年次後学期、2年次前学期)に実技科目の指導案作成、模擬授業の実施回数を増やすことが望ましいと考える。

(2) 平成29年度3月公示の学習指導要領(以下:新学習指導要領)が公示され³⁾、平成30年度~平成32年度の移行期間を経て、平成33年度4月1日から全面実施される。これを受けて本学の教員養成課程においてもシラバスや講義内容の再検討が必要であると考えられる。

(3) 新学習指導要領における資質・能力の三つの柱をふまえた保健体育科教育法体育分野の内容の検討
育成を目指す資質・能力の明確化

中央教育審議会答申⁴⁾においては、予測困難な社会の変化に主体的に関わり、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかという目的を自ら考え、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けられるようにすることが重要であること、こうした力は全く新しい力ということではなく学校教育が長年その育成を目指してきた「生きる力」であることを改めて捉え直し、学校教育がしっかりとその強みを発揮できるようにしていくことが必要とされた。また、汎用的な能力の育成を重視する世界的な潮流を踏まえつつ、知識及び技能と思考力、判断力、表現力等をバランスよく育成してきた我が国の学校教育の蓄

積を生かしていくことが重要とされた。

このため「生きる力」をより具体化し、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力を、ア「何を理解しているか、何ができるか(生きて働く「知識・技能」の習得)」、イ「理解していること・できることをどう使うか(未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成)」、ウ「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵かん養)」の三つの柱に整理するとともに、各教科等の目標や内容についても、この三つの柱に基づく再整理を図るよう提言がなされた。

上記の文章は平成 29 年 7 月に公示された中学校学習指導要領解説保健体育編の 3 頁からの抜粋である⁵⁾。今回の改訂では上記の事を踏まえ全ての教科等の目標及び内容が「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱として再整理されている。これを保健体育科教育法体育分野の講義にあてはめると「知識及び技能」においては学習指導要領の内容を着実に習得しながら、他の体育・スポーツに関する知識や他分野と関連付けながら知識の定着を図って行きたい。「思考力、判断力、表現力等」においては、例えば受講学生が本学で開講されている実技科目などで感じた改善点や問題点をグループワークなど通じて検討し、それを基に指導案を作成し模擬授業を行うといったことが有効であると考えられる。

「学びに向かう力、人間性等」においては、作成した指導案を教育実習前に中学生を対象に授業を行うことが理想である。しかしながら、授業内において受講学生が一人ずつ中学生を対象に模擬授業を行なうことは現実的ではないので、学外授業などで近隣のスポーツボランティアなどに参加し、そこで学生が自分達で企画した内容を指導する機会が得られれば良いのではないだろうか。学生が子ども達から見られることにより情意面や態度面にも良い影響を及ぼすことが期待できる。

VI まとめ

本稿では本学の保健体育科教育法の現状と課題について記してきたが、現状においても保健体育科教育法のみならず、本学の保健体育教員養成課程は

一定の成果をあげていると考えられる。

しかしながら、現状に満足せずに、次年度から本格的な移行期間に入る新学習指導要領の内容を踏まえながら、他の教職課程に携わる教職員と連携を取り、時代のニーズや学生の声に耳を傾け内容を評価・改善し、PDCA サイクルを続ける姿勢は必要不可欠であると考えられる。

【参考文献】

- 1) 中学校学習指導要領 (2008) 文部科学省 東山書房
- 2) 中学校学習指導要領解説 保健体育編 (2008) 文部科学省 東山書房
- 3) 中学校学習指導要領 (2017) 文部科学省
- 4) 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について (2016) 中央教育審議会
- 5) 中学校学習指導要領解説 保健体育編 (2017) 文部科学省

表 1 配布プリント例

保健体育科教育法 体育分野 小テスト

保健体育

目標

()と体を一体としてとらえ、運動や健康・()についての理解と運動の()的な実践を通して、()にわたって運動に親しむ資質や()を育てるとともに健康の()のための実践力の育成と()の向上を図り、明るく豊かな生活を営む()を育てる。

体育分野 第一学年及び第二学年

目標

運動の()な実践を通して、運動の楽しさや()を味わうことができるとともに、()や技能を身に付け、運動を豊かに()することができるようにする。

運動を()に行うことによって、体力を高め、心身の()発達を図る。

運動における競争や()の経験を通して、()に取り組む、互いに協力する、自己の()を果たすなどの意欲を育てるとともに、健康・安全に留意し、自己の最善を尽くして運動をする態度を育てる。

体育分野 第三学年

目標

運動の合理的な実践を通して、運動の()や喜びを味わうとともに、知識や()を高め、()にわたって運動を豊かに実践することができるようにする。

運動を()に行うことによって、自己の()に応じて体力の()を図る能力を育て、()の調和的発達を図る。

運動における()や協同の経験を通して、公正に取り組む、互いに()する、自己の()を果たす、()するなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を()して、生涯にわたって運動に()態度を育てる。

保健体育科教育法 体育分野プリント

内容(第一学年及び第二学年)

A 体づくり運動

体の運動を通して、体を動かす楽しさや()を味わい、体力を高め、()に適した運動を身に付け、()ことができるようにする。

()の運動では、心と体の関係に気付き、体の調子をを整え、仲間と交流するための手軽な運動や()な運動を行うこと。

()高める運動では、ねらいに応じて、体の柔らかさ、()動き、力強い動き、動きを()する能力を高めるための運動を行うとともに、それらを組み合わせて運動の計画に取り組むこと。

体づくり運動に積極的に取り組むとともに、分担した()を果たそうとすることなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。

体づくり運動の意義と行い方、運動の計画の立て方などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を()できるようにする。

B 器械運動

体の運動について、()ができる楽しさや喜びを味わい、その技がよりよくできるようにする。

マット運動では、()系や巧技系の基本的な技を()に行うこと、条件を変えた技、発展技を行うこと、それらを組み合わせること。

()運動では、支持系や懸垂系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技、発展技を行うこと、それらを組み合わせること。

平均台運動では、体操系や()系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技、発展技を行うこと、それらを組み合わせること。

()運動では、切り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技、発展技を行うこと。

器械運動に積極的に取り組むとともに、よい()を認めようとして、分担した役割を果たそうとすることなどや、()に気を配ることができるようにする。

器械運動の()や成り立ち、技の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、()に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

C 陸上競技

1) 次の運動について、()の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、基本的な動きや効率のよい動きをみにつけることができるようにする。

短距離走・()では、滑らかな動きで()走ること、長距離走では、()を守り一定の距離を走ること、ハードル走では、()な走りから滑らかにハードルを越すこと。

走り幅跳びでは、()に乗った助走から素早く踏み切って跳ぶこと、()では、リズムカルな助走から力強く踏み切って大きな動作で跳ぶこと。

2) 陸上競技に積極的に取り組むとともに、()などを認め、ルールや()を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。

3) 陸上競技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、関連して高まる()などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

水泳

1) 次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、()を身につけることができるようにする。

クロールでは、足と手、呼吸のバランスをとり()泳ぐこと。

平泳ぎでは、手と足、呼吸のバランスをとり()泳ぐこと。

背泳ぎでは、手と足、呼吸のバランスをとり泳ぐこと。

()では、手と足、呼吸のバランスをとりおおよそ。

泳に積極的に取り組むとともに、勝敗などを認め、ルールやマナーを守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、水泳の()防止に関する心得など健康・安全に気を配ることができるようにする。

泳の特性や成り立ち、()の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

内容(第三学年)

A 体づくり運動

体の運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさを味わい、健康の保持増進や体力の向上を図り、目的に適した運動の計画を立て取り組むことができるようにする。

体ほぐしの運動では、()と体は互いに()し変化することに気付き、体の状態に応じて体の調子をを整え、仲間と積極的に()するための手軽な運動や()な運動を行うこと。

体力を高める運動では、ねらいに応じて、健康の保持増進や()のとれた体力の向上を図るための運動の計画を立て取り組むこと。

体づくり運動に()的に取り組むとともに、体力の違いに()しようとして、自己の()を果たそうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。

運動を継続する()、体の構造、運動の()などを理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

B 器械運動

体の運動について、()ができる楽しさや喜びを味わい、自己に適した技で演技することができるようにする。

()運動では、回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに()して行うこと、条件を変えた技、発展技を行うこと、それらを()し演技すること。

()運動では、支持系や懸垂系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技、発展技を行うこと、それらを構成し演技すること。

()運動では、体操系やバランス系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技、発展技を行うこと、それらを構成し演技すること。

()運動では、切り返し系や回転系の基本的な技を滑らかに安定して行うこと、条件を変えた技、発展技を行うこと。

器械運動に自主的に取り組むとともに、よい演技を()とすること、自己の責任を果たそうとすることなどや、健康・安全を()することができるようにする。

技の名称や行い方、体力の高め方、()の方法などを理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

表2 配布プリント例

C陸上競技

1) 次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、()の技能を身に付けることができるようにする。

短距離走・リレーでは、()へのつなぎを滑らかにするなどして速く走ること、長距離走では、()に適したペースを維持して走ること、ハードル走では、スピードを維持した走りからハードルを低く越すこと。

走り幅跳びでは、スピードに乗った助走から()踏み切って跳ぶこと、走り高跳びでは、リズムカルな助走から力強く踏み切り滑らかな()動作で跳ぶこと。

2) 陸上競技に()に取り組むとともに、勝敗などを()受け止め、ルールやマナーを()にしようとする、()を果たそうとすることなどや、健康・安全を()することができるようにする。

3) ()の名称や行い方、()の高め方、()の方法などを理解し、自己の()に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

水泳

1) 次の運動について、記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、()に泳ぐことができるようにする。

クロールでは、足と手、呼吸のバランスを()、()したペースで()泳いだり()泳いだりすること。

平泳ぎでは、手と足、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで長く泳いだり速く泳いだりすること。

背泳ぎでは、手と足、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで泳ぐこと。バタフライでは、手と足、呼吸のバランスを保ち、安定したペースで泳ぐこと。

()の泳法で泳ぐこと、又は()をすること。

K泳に()に取り組むとともに、勝敗など冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすることなどや、水泳の事故防止に関する心得など健康・安全を確保することができるようにする。

技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解し、自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫できるようにする。

オ 「B 球技」の(1)の運動については、第1学年及び第2学年においては、アからウまでを()の生徒に履修させること。第3学年においては、アからウまでの中から()を選択して履修できるようにすること。また、アについては、()、ハンドボール、()の中から、イについては、()、卓球、()、バドミントンの中から、ウについては、()を適宜取り上げることとし、地域や学校の実態に応じて、その他の運動についても履修させることができること。なお、()の実施に当たり、十分な広さの運動場の確保が難しい場合は指導方法を工夫して行うこと。

カ 「F 武道」の(1)の運動については、アからウまでの中から()を選択して履修できるようにすること。なお、地域や学校の実態に応じて、()などのその他の武道についても履修させることができること。また、()などの確保が難しい場合は指導方法を工夫して行うとともに、学習段階や個人差を踏まえ、()的な指導を行うなど()の確保に十分留意すること。

キ 「G ダンス」の(1)の運動については、アから()までの中から選択して履修できるようにすること。なお、地域や学校の実態に応じて、その他のダンスについても履修させることができること。

ク 第1学年及び第2学年の内容の「H 体育理論」については、(1)は第()学年、(2)は第()学年で取り上げること。

(1) 内容の「A 体づくり運動」から「G ダンス」までの領域及び運動の選択並びにその指導に当たっては、地域や学校の実態及び生徒の()等を考慮するものとする。その際、指導に当たっては、内容の「B 器械運動」から「G ダンス」までの領域については、それぞれの運動の特性に触れるために必要な()を生徒自ら高めるように留意するものとする。

(2) 自然とのかかわりの深い()、スケートや()活動などの指導については、地域や学校の実態に応じて積極的に行うことに留意するものとする。

(3) ()、整頓、列の増減、方向変換などの行動の仕方を身に付け、能率的で安全な()としての行動ができるようにするための指導については、内容の「A 体づくり運動」から「G ダンス」までの領域において適切に行うものとする。

保健体育科教育法 プリント

内容の取扱い

(1) 内容の各領域については、次のとおり取り扱うものとする。

ア 第1学年及び第2学年においては、()から()までについては、()の生徒に履修させること。その際、「A 体づくり運動」及び「H 体育理論」については、()学年にわたって履修させること。

イ 第3学年においては、「A 体づくり運動」及び「H 体育理論」については、()の生徒に履修させること。「B 器械運動」、()、「D 水泳」及び「G ダンス」についてはこれらの中から()以上を、「E 球技」及び()についてはこれらの中から()以上をそれぞれ選択して履修できるようにすること。

(2) 内容の「A 体づくり運動」から「H 体育理論」までに示す事項については、次のとおり取り扱うものとする。

ア 「A 体づくり運動」の(1)の()の運動については、()から「G ダンス」までにおいても関連を図って指導することができるとともに、()など保健分野との関連を図ること。また、「A 体づくり運動」の(1)の()の運動については、第1学年及び第2学年においては、動きを()する能力を高めることに留意すること。第3学年においては、()的に取り組める運動例を取り上げるなど指導方法の工夫を図ること。

イ 「B 器械運動」の(1)の運動については、第1学年及び第2学年においては、アからエまでの中からアを含む()を選択して履修できるようにすること。第3学年においては、()からエまでの中から選択して履修できるようにすること。

ウ 「C 陸上競技」の(1)の運動については、ア及びイに示すそれぞれの運動の中から選択して履修できるようにすること。

エ 「D 水泳」の(1)の運動については、第1学年及び第2学年においては、アからエまでの中からア又は()のいずれかを含む()を選択して履修できるようにすること。第3学年においては、アから()までの中から選択して履修できるようにすること。また、泳法との関連において()からのスタート及び()を取り上げること。なお、水泳の指導については、適切な水泳場の確保が困難な場合にはこれを扱わないことができるが、水泳の()防止に関する心得については、必ず取り上げること。また、保健分野の()との関連を図ること。

表3 体育・スポーツに関する一般常識問題の一例

体育・スポーツに関する一般常識問題	
氏名	
最初の東京オリンピックが開催されたのは、()年であり、次は()年に開催される。	現在イチロー選手が所属している球団は()である。
近代オリンピックの父といえ、フランス人の()男爵である。	フルマラソンの距離は()kmである。
国際オリンピック委員会をアルファベット3文字で()という。	卓球は通常3ゲーム先取した方が勝ちであり、各ゲームは()点先取である。
日本オリンピック委員会をアルファベット3文字で()という。	卓球で使用するボールの直径は()mmである。
世界アンチドーピング機構をアルファベット4文字で()という。	ウェイトトレーニングのBIG3スリーといえ()、()、()である。
五大大陸のうち、いまだにオリンピックが開催されていない大陸は？()	サッカーのPK戦は、通常1チーム何本ずつシュートを行う？
1988年の()オリンピックで陸上男子100mのカナダ代表()は禁止薬物の使用が発覚した為、金メダルをなく奪われた。	水泳・自転車・長距離走の3競技を同時に行う、過酷な競技の名前は？
現在の陸上男子100mの世界記録保持者は()代表の()選手である。	ゴルフで、各ホールでの第1打のことを何ショットという？
公式の陸上トラック1週は()mである。	ゴルフコースに設置されている、砂地の障害物を何という？
捻挫などをした際の応急処置の手順は、「安静、冷却、圧迫、挙上」であるが、これをアルファベット4文字で()処置という。	ハンドボールは1チーム何人でプレイするもの？
現在、日本のプロ野球はセリーグ、パリーグ合わせて合計()球団である。	ラグビーは1チーム何人でプレイするもの？
野球、バスケットボール、ハンドボールの両チームの出場選手(ベンチは除く)を合計すると()人になる	全国高校野球選手権大会はどこで行われる？
サッカーで1人の選手が1試合で3得点することを()という。	ラグビーでボールを持っている選手に体当たりするプレイをなんという？
ペナルティエリアで反則したチームへの罰となるキックを()という。	ラグビーでトライを取ると何点入る？
サッカーのゴールの高さは()mである。	ボクシングは通常1ラウンド何分で行われる？
「ブンデスリーガ」といえ、()のサッカーリーグである。	スポーツなどの得点で、ダブルスコアとは何をさす？
サッカーW杯で初めてゴールを挙げた日本人といえ()	2000年夏季オリンピックが開催されたオーストラリアの都市の名前は？
リーグ・エスバニョーラといえ()のサッカーリーグである。	柔道の3つの技の判定を評価の高い順に(※2009年に効果は廃止された)
サッカーでゴールキーパーを除いた守備側プレイヤーより攻撃側プレイヤーがゴール側でパスを受けとる反則を()という。	1984年ロサンゼルスオリンピックで男子無差別級で金メダルをとり後に国民栄誉賞を受賞した柔道家は？
バレーボールは1895年にアメリカ人の()により考案された。	日本女子48kg級で5度のオリンピックに出場し金2つ、銀2つ、銅1つのメダルをとった選手は？柔ちゃんの愛称でお馴染み
バレーボールのネットの高さは一般男子で()m一般女子で()mである。	ローズボール、タッチダウン、クォーターバックといえ何のスポーツ？
バレーボールは通常3ゲーム先取した方が勝ちであり、各セットは()点先取である。	グレコローマンスタイル、フリースタイル、フォールといえ何のスポーツ？
バレーボールで同じプレイヤーが二回連続してボールに触れてしまう反則は？	スナッチ、ジャークといえ何のスポーツ？
バレーボールのコートの広さは？()m×()mである。	大相撲の幕内力士横綱、大関、()、小結、()
バスケットボールのリングの高さは()mである。	テニスの全英オープン選手権の別名は()選手権である。
バスケットボールのコートの広さは？()m×()mである。	テニスで0点を意味する言葉
バスケットボールにおいてボールを持って3歩以上歩く反則を()という。	オリンピック開催地で大会直後に行われる、障害者のオリンピックは何と呼ぶ？
バスケットボールの試合時間は何分か(高校生以上)？()分×()	無安打無得点試合とも呼ばれる「ノーヒット・ノーラン」は、四死球と()による出塁は対象外である
バスケットボールは1891年にアメリカ人の()により考案された。	1試合で単打、二塁打、三塁打、本塁打を同一打者が打つことを()という。
バスケットボールにおいてボールを保持した時点から()秒以内にシュートをうたなければ相手チームのボールになる。	国民栄誉賞の初受賞者は()である。
	石川佳純(いしかわかすみ)、平野早矢香(ひらのさやか)と共に、ロンドンオリンピック卓球女子団地で銀メダルを獲得した選手は？
	日本人男子最高である世界ランキング記録を持つプロテニスプレーヤーは？

表4 体育分野の領域及び内容の取扱い

領域及び領域の内容	1年	2年	内容の取扱い	領域及び領域の内容	3年	内容の取扱い
【A体づくり運動】	必修	必修	ア、イ必修 (各学年7単位時間以上)	【A体づくり運動】	必修	ア、イ必修 (各学年7単位時間以上)
ア 体ほぐしの運動				ア 体ほぐしの運動		
イ 体力を高める運動				イ 体力を高める運動		
【B器械運動】	必修	2年間でアを含む ②選択	2年間でア及びイのそれぞれから選択	【B器械運動】	B,C D,G から① 以上 選択	ア～エから選択
ア マット運動				ア マット運動		
イ 鉄棒運動				イ 鉄棒運動		
ウ 平均台運動				ウ 平均台運動		
エ 跳び箱運動				エ 跳び箱運動		
【C陸上競技】	必修	2年間でア及びイのそれぞれから選択	2年間でア及びイのそれぞれから選択	【C陸上競技】	B,C D,G から① 以上 選択	ア及びイのそれぞれから選択
ア 短距離走・リレー、 長距離走又は ハードル走				ア 短距離走・リレー、 長距離走又は ハードル走		
イ 走り幅跳び又は 走り高跳び	必修	2年間でア又はイを含む②選択	2年間でア又はイを含む②選択	イ 走り幅跳び又は 走り高跳び	B,C D,G から① 以上 選択	ア～オから選択
【D水泳】				【D水泳】		
ア クロール				ア クロール		
イ 平泳ぎ				イ 平泳ぎ		
ウ 背泳ぎ				ウ 背泳ぎ		
エ バタフライ	エ バタフライ					
				オ 複数の泳法で泳ぐ 又はリレー		
【E球技】	必修	2年間でア～ウの すべてを選択	2年間でア～ウの すべてを選択	【E球技】	E,F から① 以上 選択	ア～ウから②選択
ア ゴール型				ア ゴール型		
イ ネット型				イ ネット型		
ウ ベースボール型	必修	2年間でア～ウから①選択	2年間でア～ウから①選択	ウ ベースボール型	E,F から① 以上 選択	ア～ウから①選択
【F武道】				【F武道】		
ア 柔道				ア 柔道		
イ 剣道	イ 剣道					
ウ 相撲	ウ 相撲					
【Gダンス】	必修	2年間でア～ウから 選択	2年間でア～ウから 選択	【Gダンス】	B,C D,G から① 以上 選択	ア～ウから選択
ア 創作ダンス				ア 創作ダンス		
イ フォークダンス				イ フォークダンス		
ウ 現代的なリズムの ダンス				ウ 現代的なリズムの ダンス		
【H体育理論】	必修	必修	(1)第1学年必修 (2)第2学年必修 (各学年3単位時間以上)	【H体育理論】	必修	(1)第3学年必修 (3単位時間以上)
(1)運動やスポーツの 多様性				(1)文化としての スポーツの意義		
(2)運動やスポーツが 心身の発達に与 える効果と安全						